

沖縄の島々(南西諸島)を再び戦場にさせない 戦争に直結する基地も武器もなくしたい

苦悩する基地の島 沖縄

◆沖縄は、先の大戦で多くの犠牲者を出しました。基地が集中していることから、事件・事故が多発し、1972年から2020年までに6109件にのぼっています。なかでも殺人、強盗、強姦など凶悪犯罪も多く、また戦闘機による爆音で恐怖や不安の中で生活を余儀なくされています。

辺野古新基地建設 工事費底なし

◆政府は、県民の反対を押し切って、辺野古に新基地建設を進めています。大浦湾側に軟弱地盤(マヨネーズ状)があり、工事費が膨らみ工期も見通しがたらず、総工費は何と2兆円から3兆円と言われています。私たちの血税をドブに捨てているようなものです。

着々と進む戦争準備

◆防衛省は、台湾有事を想定し、鹿児島県から沖縄県にかけての南西諸島に従来の沖永良部島・沖縄本島・久米島・宮古島・与那国島の基地に加え、2019年には奄美大島、2023年には石垣島そして4年後には馬毛島に自衛隊駐屯地が置かれ、着々と戦争準備が進められています。(裏面参照)。

◆私たちのまわりでは、沖縄の現状があまり知らされず、また無関心や無反応が軍備増強に拍車をかけています。2024年度防衛予算は、約7兆7千億円で、2023年度から5年間で総額43兆円と、とてつもない金額です。

平和は外交で貫くこと

◆麻生太郎副総裁は、8月、台北市で開かれた国際フォーラムにおいて、「『戦う覚悟だ。防衛力を持つていくだけでなく、いざとなったら使う』と挑発的な発言をしました。『日本国民に『戦う覚悟』まで求める』内容であり、見過ごしてはなりません。沖縄県民は『再び戦争体験の恐怖はごめん』と悲痛な思いをしています。

◆今年3月玉城知事は、アメリカを訪問しました。また4月には県庁内に「地域外交部屋」を設立し、東アジアに向けて積極的な平和外交を展開しています。照屋副知事が韓国へ、玉城知事は中国へ出向いています。政府も「戦う覚悟」ではなく平和外交を積極的に進め「戦争をしない覚悟」が必要です。

二〇二三年一〇月八日(日) 護憲平和行進(通算六八〇回目)

浜松市憲法を守る会 事務局 浜松市中区紺屋町三〇一一一五

★月例護憲平和行進 毎月第二日曜日・一三時・浜松市役所正面玄関集合

